

歌川広重「名所江戸百景」最後の挑戦

2026年4月15日（水）～6月14日（日）

前期4月15日（水）～5月10日（日）

後期5月15日（金）～6月14日（日）※前後期で全点展示替え

歌川広重「名所江戸百景」全120点を約8年ぶりに公開

江戸時代後期に名所絵で一世を風靡し、生涯にわたって第一線で活躍し続けた絵師・歌川広重（1797-1858）。その最晩年に描かれ、生涯最大の作品数を誇るシリーズ「名所江戸百景」は世界的にもよく知られた名品です。

従来の浮世絵風景画の枠にとらわれない大胆かつ奇抜な構図や、見過ごされてきた場所を新しい名所として描き出す視点、変わりゆく江戸の最新の世相を巧みに取り入れる工夫など、本作には広重の旺盛な創意と挑戦が凝縮されています。

本展では、「名所江戸百景」シリーズ全120点を約8年ぶりに一挙公開。全作の展観を通じて、広重が晩年に挑んだ表現の革新と、その到達点を作品から読み解きます。名作の圧倒的な魅力を、ぜひ会場でご体感ください。

① 極上の彫摺で堪能する、最後の超大作

広重が還暦を迎えてから62歳で没するまでの3年間に手掛けられた本作は、一部は死後に出版されたという、まさに絶筆とも言える作品でした。本展では、初代広重が手掛けた118図に、二代広重が描いた1図、および目録を加えた全120点を前後期に分けて公開。当館所蔵の「名所江戸百景」は国内でも指折りとなる、きわめて良好な保存状態と美しい彫摺を誇り、名作の全貌を間近で堪能できる、またとない機会となるでしょう。

② 風景画の革新—奇抜な構図への挑戦

本作の大きな特色の一つが、手前に極端に大きなモチーフを配した、「近像型構図」と呼ばれる大胆な構図でしょう。そのほかにも、広重はトリミングや俯瞰視点などを駆使した、革新的でデザイン性の高い画面を、多く生み出しました。広重による壮大な実験の場であったとも言える本作は、西洋美術へ深い影響を与えたことでも知られており、和洋を問わず、以降の風景画の流れに影響を与えた重要な作品と言えるでしょう。

③ 江戸の「今」を写す—新しい名所の開拓と最新の世相

広重は本作において、構図以外にも新たな試みを随所に盛り込んでいます。王子や目黒といった自然景観に恵まれた地域をはじめ、市中から郊外にまで視野を広げ、新たな名所を精力的に開拓。さらに、黒船来航後の御台場建設によって削られた御殿山の姿を描くなど、激動する幕末の社会状況も敏感に捉えました。浮世絵の風景画のあり方を再定義し、時代性も反映させた、広重の幅広い工夫を作品から読み解きます。



(1) 歌川広重「名所江戸百景 深川洲崎十万坪」(前期)



(2) 歌川広重「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」(前期)



(3) 歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」(後期)



(4) 歌川広重「名所江戸百景 水道橋駿河台」(後期)



(5) 歌川広重「名所江戸百景 日本橋江戸ばし」(前期)



(6) 歌川広重「名所江戸百景 王子音無川堰棟 世俗大瀧ト唱」(後期)



(7) 歌川広重「名所江戸百景 浅草金龍山」(前期)



(8) 歌川広重「名所江戸百景 浅草田圃西の町詣」(前期)



(9) 歌川広重「名所江戸百景 猿わか町よるの景」(後期)



太田記念美術館
公式サイト



画像申請・取材
の申込はこちら

タイトル 歌川広重「名所江戸百景」最後の挑戦

英タイトル Utagawa Hiroshige “One Hundred Famous Views of Edo” – His Final Challenge

会 期 2026年4月15日（水）～6月14日（日）
前期 4月15日（水）～5月10日（日）
後期 5月15日（金）～6月14日（日） ※前後期で全点展示替え

開館時間 午前10時30分～午後5時30分（入館5時まで）

休館日 月曜日（5/4は開館）、5/7、5/12-14（展示替えのため）

入館料 一般 1200円 大高生 800円 中学生以下無料

アクセス JR山手線 原宿駅（表参道口）より徒歩5分
東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅（5番出口）より徒歩3分

問合せ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

公式サイト <https://www.ukiyoe-ota-muse.jp/>

公式X（旧Twitter） @ukiyoeota

会場・主催 太田記念美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-10

TEL 03-3403-0880 FAX 03-3470-5994

E-mail media@ukiyoe-ota-muse.jp

企画担当：渡邊晃 広報担当：金塚さくら